

岩波

現代用字辭典



岩波 現代用字辞典

岩波書店辞典編集部 編

岩波書店

岩波 現代用字辞典

© 岩波書店 1981

1981年6月20日 第1刷発行

定価 980 円

編 集 岩波書店辞典編集部

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

発 行 所 岩 波 書 店

電話 03-265-4141

振替 東京 6 26240

印刷・凸版印刷 製本・松岳社

落丁本・乱丁本はお取替いたします

まえがき

すでに聞き覚えた言葉でも、いざ文字に書くとなると、漢字の当て方や送り仮名の付け方に迷うことが多い。このような場合の便宜のために本書は編まれた。

戦後の一連の国語施策により、近ごろは仮名書きが増加の傾向にあるとはいふものの、日本語の表記法として漢字仮名まじり文がその主流をなすことに変わりはない。仮名で書くよりも漢字を用いる方が、見た目にも意味を表すにも、より適当な場合が存外多いのである。本書は、日常使われる三万余語を選んで、その一語一語について、漢字による書き表し方を、したがって同時にその場合の送り仮名の付け方を示したものである。

書き表し方については、「常用漢字表（昭和五十六年三月国語審議会答申）に準拠しながらも、旧来の表記法もまた尊重した。『常用漢字表』にない字種や音訓は、例えば、

あう 合う 会う 遭う 遇う 逢う

のように、×印や△印で標示したから、これによって常用漢字を用いて書き表し得る範囲もおのずから分かるはずである。

送り仮名は、おおむね「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月内閣告示。巻末に付録）によった。一般の使用に際しては省いてよ

いものもあり、それらは、

あたる 当たる ありあわせ 有り合わせ

のように、傍点をつけて示した。

本書は、語の表記形を端的に知るための辞典であるから、語釈や語法に関する注記などは一切省略した。しかし、発音の似通った語の中には紛らわしいものが少なくない。ことわざ・慣用句などを引き、あるいは対義語を掲げるなどして、その識別の便をはかった。また、

あげる 上げる 掲げる 挙げる

つきゅう 追及 追求 追究・追窮

のように、微妙な使い分けを要する字（語）もあるから、例句や対義語を参考にして適切な用字・用語を見出されたい。ただし、表記の使い分けは、多分に慣習によるところがあり、絶対的なものではない。右の「あげる」のように、単一の見出しのもとに複数の表記形を列挙した場合は、使い分けが必ずしも画然とせず、互いに通じ用いられることがある。

なお、例句を二つ以上挙げる時は、つとめて意味に隔たりのあるものを選んだ。用法の広がりを知るよすがともなれば幸いである。

常用漢字はまた、別に定められた人名用漢字（昭和五十六年五月

民事行政審議會審中」と共に、子の名前としても使われる。この場合の読み方は「常用漢字表」の音訓に拘束されない。このことも考慮して、常用漢字および人名用漢字については、その字音・字訓を広く掲げ、人名としての特殊な読み方も付記した。

常用漢字を始め仮名づかい・送り仮名等に関する最新の資料、その他、日常何かと便利かと思われるものを、巻末に付録した。

常用漢字表前文

常用漢字一覧

人名用漢字一覧

教育漢字の学年別配当表

送り仮名の付け方

現代仮名づかいの要点

歴史的仮名づかい早見表

陰暦月異名・二十四節気

年齢の異称・賀寿

物の数え方

手紙の用語

十干十二支・時刻方位表

旧国名一覧

記号の説明

×

「常用漢字表」にない漢字。

△

「常用漢字表」にない音訓。

— (傍線)

いわゆる熟字訓の類で、「常用漢字表」の付表にないもの。

・ (傍点)

省いてもよい送り仮名。

* * 2 :

別の表記形(*印つきの例句の場合は別にこうも書くということを示す)。

|

見出し語に相当する部分の省略記号。

!

右に同じ。ただし活用語の語幹(例えば「あおい

↓

(青い)」の「あお」の部分。

↑

対義語。

↕

字音を見出しとする常用漢字項目。この項では、

〔 〕

() 内に音訓を列記する。片仮名は音、平仮名

〔 〕

は訓、太字は「常用漢字表」にある音訓を示す。

〔 〕

(密)は、命名用に使われる特殊な読み方(名乗り)。

〔 〕

人名用漢字については巻末に別掲した。

〔 〕

旧字体を示す。一般の表記形にはいわゆる新字体

〔 〕

を用いた。

あ

あ「亜」〔ア〕つぐ 名つき、亜甲

・亜流・亜亜「一熟語」一硫酸

ああ 嗚呼・噫「一悲しいかな

あい「哀」〔アイ〕あわれ・あわれむ・かな

しい・かなしむ 哀愁・哀悼・哀願・悲哀

あい「愛」〔アイ〕いとしむ・めぐる・かな

し・まな・おしむ 愛めくみ・よし・もか

愛慕・愛情・愛好・愛説・慈愛・博愛・親愛・

割愛・母性愛（神の——の言葉）

あい 藍 青は——より出で——より青し、

あいあい 謫謫 和氣

あいあいがき 相合傘

あいれない 相容れない「両者の

利害は——

あいうち 相撃ち・相打ち・相討

あ——あいなる

あ

ち 両者——になる

あいえんきえん 合縁奇縁・合縁

機縁

あいおい 相生「一の必

あいかぎ 合鍵

あいがも 間鴨・合鴨

あいかわらず 相交わらず

あいかん 哀感「一を覚える

あいかん 哀歎「一を共にする」

あいがん 哀願

あいがん 愛玩「一の小人

あいき 間着・合着

あいきどう 合気道

あいきやく 相容

あいきよう 愛敬・愛嬌「一を振りま

く

あいくち 合「彼とは——がいい

あいくち 比首「一を突きつける

あいき 愛顧「お客様の御——にこたえ

て

あいき 愛護「動物——

あいきは 合言葉

あいきつ 挨拶「一を交わす

あいき 愛児

あいきやく 愛着

あいしゅう 哀愁「一を帯びる」

あいしゅう 愛執

あいしゅう 相性・合性「一がいい

あいしゅう 愛唱「一歌」万葉集を——

する* 愛誦

あいしゅう 愛称「一を東さんという

あいじよう 愛嬢「一の結婚式」

あいじよう 愛情「仕事に——を持つ」

あいす 合図

あいする 愛する「国を——酒を——

あいせき 哀惜「悲報に接し——の情に堪

えない

あいせき 愛惜「一の品を手放す」

あいせつ 哀切「一を極める」

あいぜんみょうおう 愛染明王

あいそ 哀訴

あいそ 愛想「一のよい人——がつき

る 愛あいそうとも。

あいせう 愛憎「一の念が甚だしハ」

あいせう 愛蔵「一の掛軸」

あいだ間「彼との——がますますなる」お

送り致し候——御受納被下度（²）候

あいたい 相對

あいだがら 間柄「親子の——」

あいぢやく 愛着

あいぢよう 哀調「一を帯びる」

あいづち 相槌「一を打つ」

あいて 相手「——に取って不足はない

あいでし 相弟子

あいどう 哀悼「一の態を表す」

あいなる 相成る「一かが——りましょ

うか

あいにく—あかす

あ

あいにく 生憎 道足には—のゆだ—
 あいのこ 合の子・間の子
 あいのて 合の手・間の手 —を入
 れる—
 あいびき 逢引・嬌曳
 あいふ 愛撫
 あいふく 間服・合服
 あいべつりく 愛別離苦
 あいべや 相部屋
 あいま 合間 仕事の—に読む
 あいまい 曖昧 —模糊—
 あいまて 相俟つて「商—」
 あいまたがい 相身互い「武士は—」
 あいよく 愛欲・愛慾
 あいらく 哀楽「喜怒」
 あいろ 隘路「交通の—」
 あいわ 哀話
 あう 合う「日と日が—」「決が—わ
 ない」「馬が—」「愛し—」

会う「米客と—」—は別れの始め
 遭う 事故に—
 遇う 道に「友に—」「雨に—」
 逢う「恋人と—」「久しぶりに—」
 あうん 阿吽・阿吽「—の呼吸」
 あえぐ 喘ぐ「不況に—」
 あえず 敢えず「取るもの取り—」
 あえて 敢えて「—を言をする」
 あえない 敢え無い「—最期をとげ
 る—」
 あえもの 和え物
 あえる 和える「みそで—」
 あえん 亜鉛
 あおい 青い「—空」「顔色が—くな
 る」* 碧い * 蒼い
 あおい 葵 —の御紋
 あおいきときき 青息吐息
 あおうなばら 青海原
 あおきり 青楓・梧桐

あおぐ 仰ぐ「犬を—」「毒を—」「會長
 に—」師と—
 あおぐ 扇ぐ・煽ぐ「うちわで—」
 あおくきい 青臭い「—悪臭」
 あおきめる 青ざめる・蒼褪め
 る
 あおしろい 青白い・蒼白い
 キンナナ—
 あおな 青菜「—に塩」
 あおにさい 青二才
 あおのく 仰く
 あおぼと 緑鳩
 あおぶくれ 青膨れ・青脹れ「—し
 た顔」
 あおみどろ 青味泥・水綿
 あおむく 仰向く
 あおやき 青柳
 あおり 障泥・泥障「—を打つ
 あおり 煽り「倒産の—をかう」

あおち 煽る「—り立てる」
 あおちる 呷る「毒を—」
 あか 赤「—と黒」「—の他人」
 あか 垢「—を落とす」
 あか 塗「—を染み出す」
 あかあかと 明明と「電灯か—とともる
 あかあかと 赤赤と「—火が燃える」
 あかい 赤い「—羽根」「—氣焰—を
 上げる」* 山嵐 * 鳥忌 * 紅い
 * 2 赭い * 3 朱い
 あかがね 銅・赤金
 あがき 足掻き「—が取れない」
 あかき 靴・蹠
 あがく 足掻く
 あかき 藜「—の要給」
 あかし 灯「御—」がともる—
 あかし 証「身の—を立てる」
 あかす 明かす「身分を—」「夜を—」
 「舞を—」

あかす 飽かす 命に「して」暗に

「して」

あかすり 垢擦り

あかだな 関伽棚

あかつき 曉 完成の「には」

あがなう 講う 本を「」

あがなう 贖う 罪を「」

あかぬけ 垢抜け 「した」ピンス

あかね 茜 「色の夕焼け空」

あかのまんま 赤の飯

あかはじ 赤恥 「を極く」

あかはだ 赤肌 「の山」

あかみ 赤み・赤味 「を帯びる」

あかみ 赤身 白身「よく」の「」

白人(びん) ひのきの「」

あがめる 崇める

あからがお 赤ら顔

あからめる 赤らめる 「顔を」

あかり 明かり 「足」の「」

あかす・あくしよ

灯「」をとます「」

あがりさま 二がり框

あがりはな 上がり端

あがりばな 上がり花

あがりゆ 上がり湯

あがる 上がる 階段を「」由が「」

「学校」「お酒を」「物価が」*

*騰る

揚がる 「たこが」「てんぷらが」

「陸上」「た河童(か)」

挙がる 「証拠が」「犯人が」

あかるい 明るい 暗い、室内が「」

「地理」

あかるみ 明るみ 事件が「に出た」

あかんぼう 赤ん坊

あき 秋 「女心と」の空

あき 明き・空き 「座席の」がある

あき 飽き・厭き 「か来る」

あきがら 空き殻・明き殻

あき 秋蚕

あきめ 秋雨

あきす 空き巣 「ねらい」

あきたらない 飽き足らない・嫌

らない 「憎んでも」

あきち 空き地

あきつしま 秋津島

あぎと 髭・腮

あきない 商い 「は牛のよだれ」

あきや 空き家・明き家

あきらか 明らか 火を見るよりも「」

あきらめる 諦める

あきる 飽きる・厭きる

あきれる 呆れる・惘れる

あきんど 商人

あく『悪』『悪』(アク・オ・わるい)あ

しにくむ(ずくんぞ)悪事・悪徳・悪

意・悪口・善悪・罪悪・改悪・善悪「一言

伝「社会」「を憎む」

あく『握』(アク・にぎる・つかむ)握手・握刀・把握・掌握

あく 明く・開く とびらが「」「幕

が「」口を「」

あく 空く・明く「席が」「手が「」

あく 灰汁「」を抜く「」の強い文章

あくい 悪意 「に解釈する」

あくいんあつか 悪因悪果

あくうん 悪連 「が強い」

あくえき 悪疫 「が流行する」

あくかんじよう 悪感情

あくきやく 悪逆 「無道(むどう)」

あくきよう 悪行

あくこう 悪業 前世の「」

あくきい 悪才 「長(なが)ける」

あくじき 悪食

あくしゅう 悪臭 「を放つ」

あくしゅう 悪習 「に染まる」

あくじよ 悪女 「の深層は、

あくせい—あさけ

あ

あくせい 悪性「—の感冒」

あくせい 悪政「善政」

あくせい 悪声「笑声」

あくせく 齟齬・促促「—と働く」

あくせん 悪銭「身につかず」

あくせんくとう 悪戦苦闘

あくた 芥・奥「—」

あくたい 悪態「—をつく」

あくだま 悪玉「善玉」

あくたれる 悪たれる

あくどう 悪党「相当な—だ」

あくどう 悪童「—ども」

あくどく 悪徳「美德」

あくば 悪罵「—を浴びせる」

あくび 欠伸

あくひつ 悪筆「速筆」

あくひよう 悪評「好評」

あくま 悪魔「—のささやき」

あくまで 飽くまで「—反對する」

あくむ 悪夢「—からさめる」

あくむ 倦む「考え—」

あくめい 悪名「—高い政治家」

あくやく 悪役「—に直る」

あくら 胡座「—をかく」

あくらつ 悪辣

あくりあみ 揚縁綱

あくりよう 悪霊

あくりよく 握力「—」

あくるひ 明くる日

あくれい 悪列「—を残す」

あけ木「—に染まる」

あけあし 揚げ足「—を取る」

あげく 挙句・揚句「—のはて」

あけしお 上げ潮「引潮」

あげせんすえせん 上げ膳据え膳

あけだし 揚げ出し「—豆腐」

あけたて 開け閉て「障子の—」

あけつばなし 明けつ放し・開け

つ放し「—の性格」

あけつらう 論う「あれこれと—」

あげて 挙げて「因を—喜ぶ」「教う

べからず」

あけはちよう 揚羽蝶

あけび 木通・通草

あけほの 曙

あけまき 揚巻・総角

あけまく 揚幕

あける 明ける「年が—」

明ける・開ける「窓を—」「穴を

—

明ける・空ける「へやを—けて

貸す「時間を—」

あげる 上げる「世を—」娘を学校

に「—仕事を月末までに—」「千円以内

で「—お祝いを—」

揚げる「船荷を—」「云書を—

挙げる「全力を—」「男・女を—」

「名を—」「式を—」

あご・顎・頤「—が—あがる」「—をは

すす」

あこうだい 赤魚鯛

あこがれる 憧れる・懐れる

あこぎ 阿漕「—なことを言う」

あこやがい 阿古屋貝「—の珠」

あさ朝「—に夕に

あさ麻「—の中の蓬」」「天下、—の

こく乱れる」

あさ字 大「—、小—」

あさ痣「打ち身が—になる」

あさしい 浅い「深い」「知恵が—」

あさいち 朝市「—が立つ」

あさがお 朝顔・牽牛花

あさがけ 朝駆け・朝駈け「夜討ち

—

あさぎ 浅葱・浅黄「—色」

あさけ 朝食・朝餉「夕食」

あざける 嘲る

あさしがはら 浅茅が原

あさせ 浅瀬

あさつき 浅葱

あさって 明後日、紺屋の

あさな 字「孔子、一は仲尼」

あさなう 糾う「禍福は一えの縄の二とし」

あさね 朝寝

あさか 浅はか・浅暮「一な」見

あさひ 朝日・旭

あさましい 浅ましい

あさみ 薊「一の花」

あさむく 欺く「唇を」明る」

あさやか 鮮やか「一に覚えて」いる」

あさやけ 朝焼け「一を夕焼け」

あざらし 海豹

あざり 浅蜊

あさる 漁る「古本を」

あさける 一 あせ

あざわらう 嘲笑う

あし 足「一を流う」机の「一」がは

やい「一」がつく「一が出る」*脚

あし 蘆・葦・芦「一人は考える」てあ

る」

あじ 味「一をしめる」、一な事をする」

あじ 鱈「一の干物」

あしあと 足跡

あしか 海驢「一の曲芸」

あしかけ 足掛け「一十年になる」

あしかせ 足枷

あしがため 足固め

あしからず 悪しからず「どうも」

あしがる 足軽「一風情」

あじきない 味気無い

あしげ 葦毛「一の馬」

あしげ 足蹴「一を」にする、

あじけない 味気無い

あししらえ 足拵え

あじさい 紫陽花

あじま 悪し様「人を」に言う」

あした 明日「一は」の風が吹く、

あした 朝「一に道を聞かば夕（ゆふ）に死すとも可なり」

あした 足駄

あしたまり 足溜まり

あしてまじい 足手纏い

あしどめ 足留め「一を食う」

あしどり 足取り「一を調べる」

あしなえ 足萎え・蹇

あしなみ 足並み「一をそろえる」

あしならし 足慣らし・足馴らし

あしは 足場「一を固める」「一が悪い」

あしび 馬酔木

あしづみ 足踏み

あしもと 足下・足元・足許「一を固める」「一につけ込む」

あじやり 阿闍梨

あしゆら 阿修羅

あじろ 網代

あじわう 味わう「一人生の苦楽を」

あす 明日「一に備える」

あずかる 預かる「一荷物を」一勝負を」

あずかる 与る「相談に」一私の」り

知らぬことだ、

あずき 小豆「一色」

あずける 預ける「金を」一「体」を

一

あずき 梓「一に」(あずき)」

あすなる 翌檜

あすま 東・吾妻・吾嬬「一に下る」

あすまた 東歌

あすまたとこ 東男「一に京おんな」

あすまた 吾妻下駄

あすまや 四阿・東屋

あせ 汗「一をかく」、の結晶」

あせ—あつけ

あ

あせ 畔・畦「田の—」

あせくらつくり 校倉造り

あせする 汗する「顔に—」

あせび 馬酔木

あせも 汗疹・汗疣

あせる 焦る「気が—」

あせる 褪せる「色が—」

あせん 啞然「一同—とした」

あそぼす 遊ぶ「琴を—」御覽！

せ

あそぶ 遊ぶ「我と来て—べや親のな

い(系一糸)「アメリカの大ザに—」

あだ 仇「—を討つ」情けが—になる

あだ 婀娜「—な姿」

あた い 価・値「—か高い」

あた い する 価する・値する「賣

賢に—」

あた う 能う「—かぎりの援助

あだうち 仇討ち

あたえる 与える「ほうびを—」損

害を—

あだおろそか 徒疎か

あたかも 恰も「—よし」

あたたかい 暖かい「—日」「懐(は)

か—

温かい「—御飯」「家庭—

あたためる 暖める「室内を—

温める「木を—」「旧父を—」

あだつばい 婀娜つばい

あだな 湊名・綽名「—で呼ぶ—

あだな 徒情・仇情

あだばな 徒花「—に過ぎない」

あたま 頭「—隠して尻(し)隠さず—

あだめく 婀娜めく

あたら 可憐「—おいを敬わす」

あたらしい 新しい「—酒を古い瓶袋

に破る」

あたらすわらず 当たらず障ら

ず

あたり 当たり「—かやわらかい」「犯

人の—がつく」

あたり 辺り「—面—」

あたりきようけん 当たり狂言

あたりきわり 当たり障り「—かな

い—

あたりどし 当たり年

あたりまえ 当たり前

あたる 当たる「—って外けろ—た

き火に—」「罰(ば)が—」

中たる「—も八卦(はち)の—ならぬもハ

卦(くわ)の—に—」

あたん 曲炭

あちら 彼方「—立てれば此方(こ)が立

たぬ」

あつ『圧』『壓』(アツ・おす・おさえる)

圧倒・圧迫・圧力・弾圧・指圧・氣圧・血圧

「—を加える」

あつあつ 熱熱「—の夫婦—」

あつ い 熱い「冷たい」「鉄は—うちに

鍛えよ」「お—仲」

暑い「—寒い」「—夏

あつ い 厚い「面(めん)の皮が—」「人情

が—」」「御礼(ごれい)申します」「利の—仕

事

*篤い「病が—くなる」

あつ えん 圧延「—機—」

あつか 悪化「病状が—する—」

あつか 悪貨「—は良貨を駆逐する」

あつかう 扱(は)う「機械を—」「客を丁寧

に—」

あつかましい 厚かましい

あつかん 圧巻「第—場がこの芝居の—

だ

あつかん 悪漢「—が登場する—」

あつかん 熱燭「—で一杯やる」

あつけ 呆氣「—にとられる」「—ない

傍点(・)は省いてもよい送り仮名、*印は別の書き表し方を示す。〔〕項目の(名)は名乗り。

幕切れ

あつこう 悪口「一難言(なんごん)」

あつさく 圧搾「一空氣」

あつさつ 圧殺「反対意見を—する」

あつし 圧死

アツシ 厚司・厚子「—をれた大工」

あつする 圧する「会場を—大出」

あつせい 圧制「軍部の—に抵抗する」

あつせい 圧政「暴君の—に苦しむ」

あつせん 幹旋

あつたもの 可惜物・可惜者

あつとう 圧倒「一的」

あつばく 圧迫「胸を—する」

あつばれ 天晴・達「—な手柄」

あつづく 圧伏・圧服

あつめる 集める・蒐める「切手

を—同情を—

あつもの 葵「—に捲りてなますを味く」

あつよう 厚様・厚葉「油様・薄葉

あつらえむき 誂え向き「お—の仕

事—

あつらえる 誂える

あつれき 軋轢「—が絶えない」

あてがいふち 宛行扶持

あてこする 当て擦る

あてきき 宛先「—不明」

あてじ 当て字・宛字

あてすがた 艶姿

あてど 当て所「—なくさまよう

あてな 宛名

あてはずれ 当て外れ

あてやか 艶やか「—に装う」

あててる 当てる「日光に—」つぎを

—「仮名に漢字を—」

充てる「残額を本代に—」

中てる「久を前に—」

*宛てる「父に—てて手紙を書く」

絶える「—の榮り」

あと 跡「水釜の—「古い城の—」」傷の

*「家の—を取る」*址*る痕

あとあし 後足・後肢「—で跡をかけ

る—

あとあし 後味「—が悪い」

あとかた 跡形「—もない」

あとかたづけ 跡片付け・後片付

け

あとがま 後釜「—にすわる」

あとくされ 後腐れ「—がないように

する」

あとしき 跡式・跡敷

あとじきり 後退り「△あとずさり

とも」

あとつき 跡継ぎ「—の養子

後継ぎ「—を養成する」

あとぶつ 阿堵物

あとまわし 後回し・後廻し

あとめ 跡目「—相継」

あととり 鴛子鳥・花鶏

あな 穴「—を掘る 借金の一を埋め

る「—があれば入らない」

孔「針の—から大針のぞく」

あなま 穴熊・獾

あなぐら 穴蔵・窖

あなご 穴子

あなた 貴方「—まかせ」

貴女「御主人と—一緒に—もどうぞ」

あなた 彼方「山の—の遠く

あなどる 侮る

あなば 穴場「—を探す」

あに 兄・弟

あに 豈「—(何)らんや」

あにき 兄貴

あによめ 兄嫁・嫂

あね 姉・妹

あねご 姉御・姐御「—肌の女親分

あはく—あみあげ

あ

あはく・暴く・発く「秘密を—」

あはすれ 阿婆擦れ

あはた 痘痕「—もえくば」

あはらばね 肋骨

あはれる 曇れる

あびきょうかん 阿鼻叫喚

あびせる 浴びせる「質問を—、弄

難を—」

あひる 家鴨「—の火事見舞」

あひる 浴びる「水を—に非難を—」

あふ 阿付・阿附「—迎合」

あふ 蛇「—鱗を取らず

あぶくせに 泡銭

あぶない 危ない「—橋を渡る」

あぶはちどらず 虹蜂取らず「—に

終わる」

あぶみ 錠

あぶら 油「水と—」を売る」

脂・膏 血と—「—か乗る」

あぶらあせ 脂汗・膏汗

あぶらえ 油絵

あぶらかす 油粕

あぶらけ 脂気「—のない髪

あぶらけ 油揚

あぶらしよう 脂性「—荒れた性

あぶらみ 脂身

あぶる 炙る・焙る「火に—、

あふれる 溢れる「群衆が広場に—」

あべかわもち 安倍川餅

あへん 阿片・鴉片

あほう 阿房・阿呆

あほうどり 信天翁

あぼだらきよう 阿呆陀羅經

あま 尼「修道院の—さん」

あま 海女「—の誘面」

あま 亜麻「—色の髪」

あまあし 雨脚・雨足「—がはげし

い」「—が速い」

あまい 甘い「辛い—人を—く見る」

「女に—」

あまえる 甘える

あまがける 天翔る

あまがさ 雨傘

あまかわ 甘皮「—を割(く)ぐ」

あまぐ 雨具

あまくだり 天下り・天降り「—の

人事

あまくち 甘口「マロ—の酒」

あまきけ 甘酒・醴

あまがらし 雨曝し

あますす 余す「—所なく

あますすばい 甘酸っぱい

あまた 数多・許多「引く—」

あまたい 甘鯛

あまたれ 雨垂れ「—石を穿(く)つ」

あまつさえ 剩え

あまとう 甘党「辛党

あまにゆ 亜麻仁油

あまねく 遍く・普く・洽く「全国

に—知らせる」

あまのがわ 天の川・天の河・天

漢

あまのじやく 天の邪鬼

あまみ 甘み・甘味

あまもよい 雨催い

あまもり 雨漏り

あまやかす 甘やかす

あまよけ 雨避け

あまり 余り「—うよくない—補って

—ある」

あまる 余る「身に—光栄」思案に

—」

あまんする 甘んずる「清貧に—

あみ 網「—を張る」「法—をくぐる」

あみ 醬蝦・糠蝦「—のつくた煮」

あみあげ 編み上げ

あみた 阿弥陀 帽子を―にかぶる―

あみもと 網元

あむ 編む 毛糸を―「辞書を―

あめ 雨 ーが降ろうが栴(あめ)が降ろう

が ー降って地固まる―

あめ 飴 ーをしめおらせる

あめつち 天地

あめのうお 鮠・江鮠 前田降して志

賀の夕日や―(飯村)―

あめんぼ 水曜

あや文・綾 「ことばの―」

あやうい 危うい 「累卵の―きにあら

る」―「命をとりとめた」

あやおり 綾織り

あやかる 肖る 「何とか君に―りない

ものだ

あやしい 怪しい ー物音、空模様

が―

妖しい 「―美しさ

あみた―あらて

あやしむ 怪しむ

あやつる 操る 「小舟を―」「人を―」

英語を―

あやつり 綾取り

あやぶむ 危ぶむ 「将来を―」

あやまち 過ち 「―を犯す

あやまつ 過つ ーは改むるに憚

(あ)ることなけれ

あやまる 誤る・謬る 「答を―」

生を―

あやまる 謝る 「非礼を―

あやめ 文目 「もわかぬ閑夜(あやめ)」

あやめ 葛蒲 「いずれ―か杜若(あやめ)」

六〇の―

あゆ 鮎・年魚・香魚

あゆ 阿訖 「―迎ぎ」

あゆむ 歩む

あら粗 「をこがし出す

あらう 荒い 「暴息が―」「金遣いが

ー

粗い ー細かい「目の―さる」「手

ざわり―

あらう 洗う 洗い 浚い ー打ち明け

る―

あらう 洗う 足を―「身元を―

あらがう 抗う 「気力もない」

あらかじめ 予め 「―通知します

あらかた 粗方 「―片付いた」

あらかた 粗壁・荒壁

あらかわ 粗皮 ー甘皮

あらきも 荒肝・荒胆 「―をひく」

あらきよう 荒行

あらけずり 粗削り・荒削り 「―な

性格」

あらし 嵐・暴風・暴風雨 「―の前

の静けさ」

あらす 荒らす 「庭を―」「留守を―

あらす 非ず 「さし―」無きにしも

あらすじ 粗筋・荒筋 「事件の―」

あらそう 争う 「先を―」「血筋は―わ

れない」

あらた 新た 「一日に―」「又日に―な

り」

あらたか 灼か 露職―

あらたまの 荒玉の・新玉の 「一年

の初め―

あらたまる 改まる 「規則が―」「年

が―」「った願つき」

革まる 病勢が―

あらためて 改めて・更めて 「―こ

返事します」

あらためる 改める・更める 「思

習を―」「答へを―」

検める 「員数を―」

あらて 新玉、―を繰り出す 「―を考

えだす」

あらとーあん

あらと 粗砥・荒砥

あらら 荒野・曠野

あらひとがみ 現人神

あらまき 荒巻・新巻

あらめ 荒布

あらもの 荒物 一屋

あらゆ 新湯 一は身の赤

あららぎ 藺

あられ 蔽 雨と降る

あらわ 露 一肌を

顕 一がーになる

あらわす 表わす 怒りを顔に

*露す 寒露の意を「意味を」「脚脚を」

現わす 表を

顕す 功績を世に

著わす 著物を

あらわれる 現われる・表われ

る・顕れる 姿がー 悪事がー

あ

あり 蟻 一の穴から蟻も崩れる

ありあけ 有明 一の月

ありあわせ 有り合わせ 一は治ま

す

ありか 在処 一をさぐる

ありがたい 有り難い

ありがためいわく 有難迷惑

ありがどう 有難う

ありきたり 在り来り

ありさま 有様

ありし 在りし 一日のおもかげ

ありてい 有り体 一に言え

ありふれる 有り触れる 一れた言

案

ありゆう 亜流 一の過ぎない

ある 有る 一度一事は二度 彼に

は才能がー

ある 或る 一日、一人

あるいは 或いは

あるく 歩く 犬も一は棒に当たる

あるじ 主 一家の一

あれい 亜鈴・啞鈴 一は体操

あれこれ 彼是 一用を足す

あれしよう 荒れ性 一非性(狂)

あれる 荒れる 海がー 生活がー

あわ 泡 水のー 一を食う

あわ 粟 藩王(参)

あわい 淡い 一甲みをかける

あわす 酈す 地の美を

あわせ 恰 一に筋合える

あわせて 併せて 新春を賀し奉り

あわせる 合わせる 手をー 話を

一

併せる 隣国をー 清濁(せき)

む

会わせる 一顔がない

あわたしい 慌たたい・遽し

い 一毎日を送る

あわてる 慌てる・周章てる

を食(を)はもらいが少ない

あわび 鮑・鰓 磯の一片思い

あわもり 泡盛

あわゆき 泡雪・沫雪 一豆腐

淡雪 月にとけて一流る

あわれ 哀れ 一を催す

あわれむ 哀れむ 一を

哀れむ 憐れむ 憫れむ 生

き物を

あん(安) アン やすい・ハズくんぞ

安(やす) 安心 安否 安易 安全 安眠

治安 不安 女 安

あん(案) アン 案文 案外 案出 考案

提案 腹案 代案 齊案 法案 立案

あん(暗) アン くらゐ・やみ 暗殺 暗

宵・暗君・暗室・暗黒・暗夜・明暗・幽暗

—に警告する

あん庵・菴[×] 菴[×] 菴[×]—「幻主[×]」

あん陥[×]—「パン」

あんあん 暗暗[×]—「のうちに」

あんあんり 暗暗裏[×]・暗暗裡[×]

あんい 安易[×]—「な道を選ぶ」

あんいつ 安逸[×]—「をむさぼる」

あんえい 暗影[×]・暗翳[×]—「を投ずる」

あんか 行火[×]—「に火を入れる」

あんか 安価[×]—「な同情はお断り」

あんがい 案外[×]—「案い」—「な成績」

あんかん 安閑[×]—「としてはいられない」

い

あんき 安気[×]—「な身の上」

あんき 安危[×]—「區の—にかかわる」

あんき 暗記[×]・暗記[×]—「機」

あんぎや 行脚

あんきよ 暗渠[×]—「排水」

あん—あんま

あんぐ 暗愚

あんけん 案件[×]—「の処理」

あんこ 安居[×]—「夏[×]」

あんこう 鯨鯨[×]—「のつるし切り」

あんこう 暗合[×]—「偶然の—」

あんこう 暗号[×]—「を解読する」

あんこく 暗黒[×]・闇黒[×]—「時代」—「街」

あんさいしよ 行在所

あんさつ 暗殺

あんさん 安産[×]—「難産」

あんさん 暗算[×]—「が得意だ」

あんじ 暗示[×]—「に掛かる」

あんしつ 暗室

あんじゅう 安住[×]—「現状に—する」

あんしゅつ 案出

あんしゅう 暗唱[×]・暗誦[×]—「リーダーを—する」

あんしょう 暗礁[×]—「に乗り上げる」

あんしん 安心[×]・安神[×]—「感をいだく」

あんしんりつめい 安心立命[×]マ、あん

じんりゅうめい—「とも」

あんず 杏子[×]・杏[×]—「の実」

あんずる 案ずる[×]—「策を—」—「より発むが易[×]」

あんずるに 案ずるに[×]・按ずるに

あんせい 安靜[×]—「絶対」

あんぜん 安全[×]—「地帯」—「弁」

あんぜん 暗然[×]・黯然[×]—「として声がない」

あんそくび 安息日

あんたい 安泰[×]—「家族は—だ」

あんとん 暗澹[×]—「前途が—としている」

あんち 安置

あんちやく 安着

あんちゅうもさく 暗中摸索

あんちよく 安直[×]—「に考えるな」

あんてん 暗転[×]—「舞台」

あんど 安堵[×]—「の胸をなで下ろす」

あんどう 暗闘[×]

あんどん 行灯

あんない 案内[×]—「状」—「御—の通り」

あんに 暗に[×]—「におわせる」

あねい 安寧[×]—「秩序」

あんのじよう 案の定

あんのん 安穩

あんばい 塩梅[×]—「味の—を見る」—「体の—がよくない」

安排[×]・按配[×]—「因柄を適当に—する」

あんび 安否[×]—「を問う」

あんぶ 暗譜[×]・暗譜[×]

あんぶん 案分[×]・按分[×]—「比例」

あんぶん 案文[×]—「を用意する」マ、あ

んもん—「とも」

あんほう 審法[×]—「法」

あんま 按摩

あんま 按摩

あんみん・いあいぬ

あんみん 安眠「い妨害」

あんもく 暗黙「一の了解」

あんや 暗夜・闇夜

あんやく 暗躍

あんらく 安楽「い暮らし」・「死

あんるい 暗涙「いむせふ」

い

い

い【以】(イ・もつてもちいる) 以て

以上・以前・以降・以西・以内

い【衣】(イ・ころもきぬ・えい) 衣裳・衣類・白布・脱衣・着衣・僧衣

・金・仕

い【位】(イ・くらい) 位置・位階・地位・

水位・在位・官位・官位・名人位・各位・上

位・首位・第一・「止か」

い【囲】(イ・かこむ・かこう・め

くる) 囲む・包囲・範圍・周囲・胸囲

い【医】(イ) 医院・医師・医療・

校医・救急・療方・「は仁術」

い【依】(イ・よる) 依頼・依頼・依頼

・依然・依存

い【委】(イ・ゆだねる・まかせる・くわし

い) 委託・委員・委任・委棄・委細

い【易】(イ・エキ・やすい・やさしい・か

える) 容易・安易・簡易・容易・平易

・「に就く」

い【威】(イ・オウ・イ) 威力・威光・威風・

威令・威厳・威圧・權威・國威・示威「を

振るう」「あつこ」からず

い【胃】(イ) 胃液・胃酸・胃腸・健胃

・「が痛む」

い【為】(イ・ため・なす) 為政・

行為・作為・有為・無為

い【尉】(イ・じょう) 尉官・大尉・陸尉

い【異】(イ・こと) 異性・異條・異物・異

変・異人・異論・異端・大同小異・怪異・奇

異・驚異・盤異「一とするに足らぬ」縁

は「なもの」「を唱える」

い【移】(イ・うつる・うつす) 移住・移転

・移動・移民・推移

い【偉】(イ・えらい) 偉業・偉人・偉大・

建偉

い【意】(イ・こころ・おもう) 意外・意見

・意識・意義・意味・意思・熱意・敬意・大意

・文意「一に介しない」「一を尽くす」

「一を通ずる」「一に満たない」

い【違】(イ・ちがう・ちがえる) 違

たがえる」違法・違反・違約・相違

い【維】(イ・つなぐ) 維これ」維持・維

新・維維・綱維

い【慰】(イ・なぐさめる・なぐさむ) 慰

安・慰問・慰勞・中慰

い【遺】(イ・ユイ・わまれる・の

こす) 遺失物・遺稿・遺骨・遺産・遺書・遺

族・遺風・遺物・補遺

い【緯】(イ) 緯度・緯緯・北緯

い亥「一の刻」

い夷「一をもつて一を制す」

いあい 遺愛「一の品」

いあいぬき 居合抜き

傍点(・)は省いてもよい送り仮名、*印は別の書き表し方を示す。【】項目の格は名乗り。

此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com